



全景（左から、警察本部庁舎、行政庁舎、議会庁舎）

県庁舎は、21世紀における石川県の発展を担う県政の拠点、県民交流の拠点、県政情報等の拠点、広域防災の拠点等として長期的展望のもとに整備されている。

- 「人にやさしい県庁舎」：バリアフリーの徹底を図り誰もが安心して利用できる庁舎、利便性が高く、健康づくりや憩いの場として親しみの持てる庁舎としている。
- 「環境にやさしい県庁舎」：都市、地域、地球環境に配慮した庁舎、省資源、省エネルギー、リサイクルを徹底しライフサイクルコストの削減や環境負荷の低減を図った庁舎としている。
- 「災害に強い県庁舎」：阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、信頼性、安全性を高めた庁舎、広域防災の拠点として機能するための設備システムを備えた庁舎としている。



行政庁舎 エントランスホール



行政庁舎 知事室



議会庁舎 議場

- 歴史や文化の継承 : 石川の「力強さ」と「繊細さ」を併せ持つ縦格子を基調として、垂直線の持つ未来へと発展する力強さと石川県固有の歴史や文化の継承を独自の外観デザインとして表現した。
- 発展性のあるデザイン : 過去、現在、未来という歴史の連続性を表現する基壇部、胴部、頂部からなる三層構成を採用し、外装仕上げは石、タイル、金属と足元から頂部にいくに従って軽快となっていく発展性のあるデザインとした。
- 旧県庁舎をイメージ : 県都金沢市の街並みとの連続性を感じさせる表情を持つよう、各庁舎の屋根や外壁を統一感のあるデザインとし、旧県庁舎をイメージさせる色調とした。
- 表裏のない表情 : 石川県を代表するランドマークとして、全方向に対して表裏のない表情を持った外観とした。



警察本部庁舎 通信指令室



議会庁舎前 親水池



モックアップ検証

### 「ユニバーサルデザイン検討会」

新県庁舎は、「人にやさしい県庁舎」として、誰もが安心して利用できる庁舎とすることを目指し、障害を持つ人たちによる検証を踏まえながら検討を進めた。

検証にあたりコーディネーター（学識経験者、県リハビリテーションセンター及び県工業試験場の医療福祉関係の専門スタッフ）とユーザー（車いす使用者、視覚や聴覚に障害のある人）、これに工事施工者、設備機器メーカーの担当者、工事監理を行う設計事務所、県の担当者が参加して、誰もが使いやすいデザインを目指して「ユニバーサルデザイン検討会」と称する検討会を設け、約2年間に渡り施工図、サンプル、モックアップ（実物大の試作品）、現場での確認と段階を踏まえて検討を進めた。

検討会では、さまざまな障害を持つ人たちが一同に会して進めることで、問題点を多角的に把握し、相互理解のもとに解決案を丁寧な検証を通して模索した。



多目的トイレ





風力・太陽光発電システム



夜景全景

- 地盤改良 : 大地震時に液状化現象が起こる恐れがあったため液状化防止策として砂杭1万本余を用いた地盤改良を行った。
- 積層工法 : 行政庁舎、警察本部庁舎では安全確保等の観点から一度に3層分の鉄骨を建てて、これを追いかける形で外装仕上げを取り付けて順次施工を進める外部足場不要な積層工法を採用した。
- 配管ユニット工法 : 空調工事、衛生工事でも3層分を1単位とする縦配管ユニットを製作する、ユニット工法を採用したことで、安全で効率的な作業の確保が可能となった。

 : 内装のアクセントとして議場、知事室、エントランスなどに伝統的工芸品の活用を図るため九谷焼、加賀友禅、輪島塗、山中漆器、金沢漆器、牛首紬、加賀刺繍、金沢泊を使用


 : 木材として能登ヒバ、ケヤキ、サクラを、石材として戸室石、手取産の石、六方石を活用

 : ライトコートによる年間を通じた自然採光と中間期の自然換気を行っている

 : 3庁舎の屋根に降る雨水を集水しトイレ洗浄水や樹木への散水に利用

 : 屋外時計や園路照明に、風力・太陽光発電システムを採用

 : 将来の空調機の更新に備え更新用スペースを予め確保

 : 各階に多目的トイレ、10台分の屋根付きの障害者用駐車場、音声誘導装置、車椅子対応のエレベーター

#### DATA

金沢市鞍月1丁目地内  
平成11年11月～平成14年11月  
105,554㎡

議会庁舎  
SRC・S造：4F、B1F、PH1F  
12,453㎡

行政庁舎  
S・SRC・RC造：19F、B2F、PH3F  
68,975㎡

警察本部庁舎  
S・RC・SRC造：8F、B1F、PH1F  
24,125㎡